

ゆかりの柴又 またまた紹介

舞台の細部に宿る思い

前回に続き、寅さんの故郷柴又ゆかりの場所を紹介する。

■亀家本舗

団子屋のモデル

「男はつらいよ」の1作目が公開されたのが1969年。その1年前にはドラマ版が作られている。そのときに寅さんの育った団子屋の間取りのモデルになったと言われているのが「亀家本舗」だ。「ドラマや映画ではきれいに見えますが、あの当時のうちは、雨戸も閉まらないような古くて不便な建物だね。でも監督はそれを気に入ったみたいですよ」と会長の岩崎英二郎さん(73)は語る。岩崎さんは1作目で寅さんがまといを振るシーンで代役も務めた。そのと

岩崎英二郎さん(上)と息子で社長の純哉さん(45)



「男はつらいよ」といえば草団子。参道では多くの店で扱っている



きの様子が分かる写真や、以前の店舗の間取りが分かる模型などが店内に飾られている。

■葛飾柴又寅さん記念館

映画を疑似体験

山田洋次監督のもと1997年にオープン。セットをそのまま移設。タッフの中村光江さんいそこに立つと映画の世界わく、ジオラマの再現に入り込んだ気分が味わえる。他にもタコ社長の方、服装、色づかいなど、きっちり指示していました」とい。館内は16のエリアに分かれており、寅さんの実家「くるまや」コーナーは、実際にスタジ



寅さんのトランクの中身も大公開。葛飾柴又寅さん記念館©松竹(株)

下積み時代の歌手熱演・小林幸子さん

過去の自分無の境地で



「はがきを投函(とうかん)する場面は本当に入れています。自宅宛てにして」と語る小林幸子さん

「男はつらいよ」への出演が長年の夢だったという小林幸子さん(63)。撮影前に、キャンペーンをやっていたらかったことは何かと監督に聞かれ、歌詞カードを捨てられたこと、と答えた。「捨てられたカードに自分が重なってみえて悲しくなりました」。そのエピソードが、あのレコード店でのシーンに生かされた。渥美清との初顔合わせの日、別の仕事で宿舎への到着が深夜になったため、あいさつの代わりに渥美の部屋に手紙を差し入れておいた。翌日、現場で緊張して待っていると、渥美が小林さんを見つけ手を挙げて「よっ!」っと一声。それだけで緊張が一気に取れた。郵便局の場面ではNGを繰り返した。た

何度目かのとき、山田監督から「あなたの歩き方は、今の小林幸子、何度も紅白に出てくる歌手の歩き方です」と指摘された。「その瞬間、グサッと刺された気がしました」。下積み時代の歩き方はどんなふうだったのか。過去の自分を思い出すとするものの難しい。最後は無の境地になった。「そしたらOKが出たんです」。監督の深い演出にうならされた。映画のラストでは「おもいで酒」がヒットして、寅さんに「次は紅白だね」と声を掛けられる。まさに自身の人生をなぞるような設定だった。「故郷・新潟で、あの人気シリーズが撮影され、それに出演できたのは本当にうれしいことでした」